

[先人No.2] 京浜工業地帯を生んだ

浅野総一郎 あさのそういちろう (1848～1930)

一代で浅野財閥を築き上げ、"京浜工業地帯の生みの親"とも"コンクリート王"とも呼ばれる浅野総一郎は、嘉永元（1848）年3月10日、現在の富山県氷見市に医者の子として生まれ、幼い頃から大商人になる夢を抱いていました。



実業家への第一歩

15歳で初めての商売を興し、次々と新しい商売に手をしますがことごとく失敗。更には、庄屋の入り婿にまでなって産物会社を設立しますがこれも倒産。

「総一郎でなく損一郎」などと噂された総一郎は、借金を抱えた上に、庄屋から追い出されて東京へ出奔。総一郎24歳の時でした。

東京へ出た総一郎は、お茶の水で水に砂糖を入れて売る"冷やっこい屋"をして12円（現在の12万円ほど）ほどの儲けを得ました。

その儲けで、農家で捨てている竹の皮を仕入れ、菓子などを包む容器として売り始めます。

やがて竹の皮から、薪や炭、さらに石炭へと手を広げて事業を拡大し、更には「横浜市営瓦斯（ガス）局」で処分に困っていた、コークスやコールタール*1に目をつけます。

コークスを燃料として再利用したり、コールタールを当時流行したコレラの消毒薬として再利用することに成功したのです。

また、横浜で最初の公衆便所を設置して人糞処理の権利を得、肥料として売りさばいて利益を上げたりと、かつての「損一郎」は、いまや「廃品利用の天才」と呼ばれ、資源リサイクルの先駆者となったのです。

渋沢・安田との出会い

東京へ出て3年目の明治9(1876)年、総一郎28歳の時、生涯の友であり協力者となる、ある2人の人物に出会います。

1人は、当時第一国立銀行の頭取や、沙紙会社（後の王子製紙）の社長、渋沢栄一（しぶさわえいいち）*2です。

豪快な総一郎の性格を気に入り将来性を見抜いた渋沢は、総一郎の協力者となることを決意します。

強い味方を付けた総一郎は、「東京の発展には建築の不燃化が必要であり、それにはセメントが大きな役割を果たす。」と考え、官営で設立され赤字休業状態だった深川のセメント工場を手に入れます。

そして、このセメント事業の資金援助を頼んだのが、もう1人の人物、同郷の先輩でもある安田善次郎（やすだぜんじろう）*3でした。

この2人は、後に「浅野はエンジン、安田は石炭」と呼ばれるほどの名コンビになります。

そして、総一郎、渋沢、安田の3人は、それぞれの財産や才能を相補いながら、多くの事業を実現していくのです。

京浜工業地帯の発展

明治29(1896)年48歳の総一郎は、永年の夢であった海運業を興すため「東洋汽船株式会社」を設立、外遊先で発達した港湾施設に目を奪われます。

当時、横浜港で荷揚げされた荷物を東京へ運ぶには、手こぎの舢舨（はしけ）*4に頼るしかなく、運賃は横浜からロンドンまでとほぼ同じくらいの金額が必要でした。



京浜工業地帯

明治30(1897)年、総一郎は帰国してすぐに、東京～横浜間の遠浅な海岸に注目、大型船が着岸できる東京湾の建設と、東京～横浜間の運河開削を決意し、実現のために行動を開始します。

明治41(1908)年、安田・渋沢らと共に「鶴見埋立組合」を設立、神奈川県に、5,000万m²の埋立、延長4,100mの防波堤の築堤、運河開削、道路・鉄道施設、橋の架橋などを含めた「鶴見・川崎地先の海面埋立事業」の申請を提出しました。

この事業は、大正2(1913)年に着工、翌年創立した「鶴見埋立会社（現在の東亜建設工業）」が事業を引き継ぎ、昭和3(1928)年ついに京浜工業地帯が完成しました。

埋め立て地には大手企業の工場が建ち並び、総一郎も「浅野セメント」を始めとする数々の工場を設立、関東大震災(1923年)の復興によって供給を大きくのばしたセメントは、莫大な利益を生むこととなるのです。

「事業の鬼」として生きた生涯

しかし昭和4(1929)年、ニューヨークから広がった世界大恐慌によって、日本の好景気は急速にしばんでいきます。

総一郎は、危機感を感じ、昭和(1930)年、欧米諸国へ視察の旅に出かけますが、そのわずか3ヶ月後、ベルリンの地で病に倒れます。診断は食道癌でした。



浅野家の墓

それ聞いた病床の総一郎は「それは大変だ。仕事を急がねば。」と、今後の事業構想を秘書に記録させながら82歳のその生涯を閉じました。
現在は、横浜市鶴見区の総持寺の広大な敷地で安らかに眠っています。

年号	西暦	月.日	年齢	略歴
嘉永元	1848	3.10	0	浅野総一郎、富山県氷見郡藪田村に産まれる。
明治5	1872		24	東京へ出奔。お茶の水で「冷やっこい屋」を始める。
明治9	1876		28	第一国立銀行の頭取、沙紙会社の社長、渋沢栄一と出会う。
明治11	1878		30	横浜市営瓦斯局のコークス・コールタールの廃物利用を始める。
明治29	1896		48	航路選定と汽船購入のため、アメリカ・イギリス・ヨーロッパの各地へ外遊にでる。
明治30	1897		49	帰国
明治41	1908	3	60	「鶴見埋立組合」を組織、神奈川県に「鶴見・川崎地先の海面埋立事業」の許可申請を提出。
大正2	1913		60	許可がおり着工。
昭和3	1928		80	「鶴見・川崎地先の海面埋立事業」完成。
昭和5	1930	5	82	欧米諸国の視察に出発。
昭和5	1930	8	82	ベルリンで倒れる。
昭和5	1930	11.9	82	82歳で没す。

浅野総一郎が埋め立てた場所の地名やJR鶴見線の駅名には、総一郎ゆかりの人々の名前が残されています。

地名	JR鶴見線	由来
川崎区浅野町	浅野駅	浅野総一郎
鶴見区安善町	安善駅	安田善次郎
川崎区白石町	白石駅	白石元次郎 (総一郎の娘婿で、日本鋼管の初代社長)
川崎区大川町	大川駅	大川平三郎 (総一郎と外遊を共にした人物)
川崎区扇町	扇町駅	浅野家の家紋である扇



浅野総一郎の銅像

また、JR鶴見線「安善駅」前にあった浅野総一郎の銅像は現在、総一郎が創立した浅野学園の丘に、シャッポをかぶり、ストッキングに半ズボン姿で、右手にステッキ、左手に望遠鏡、ポケットには地図を入れた姿で、堂々と建っています。

*1 コークス

- ・・・石炭を高温で乾留し、揮発分を覗いた、はい黒色、金属製光沢のある多孔質の個体。

コールタール

- ・・・コークスを製造する際に生ずる黒色で粘りけのある油状物質。

***2** 渋沢栄一

- ．．．天保11(1840)年2月13日～昭和6(1931)年。武蔵国（現在の埼玉県深谷市）出身の実業家。第一国立銀行を設立した日本経済の父と呼ばれる。

***3** 安田善次郎

- 天保9(1838)年10月9日～大正10年(1921)年9月28日。富山県富山市出身の実業家。安田財閥の祖。両替商から出発し、安田銀行（後の富士銀行。現在のみずほコーポレート銀行）を設立、現在の損害保険ジャパン、明治安田生命保険などを次々と設立し、金融財閥としての基礎を築く。

***4** 舳（はしけ）

- ．．．舳船。陸と停泊中の本川との間を、乗客や貨物を乗せて運ぶ小舟